

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100161		
法人名	有限会社ハートフルケア		
事業所名	グループホームゆずの家1号館(1号館)		
所在地	静岡県富士宮市大岩493-15		
自己評価作成日	令和4年7月28日	評価結果市町村受理日	令和4年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2272100161-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆずの家の理念にあるように「その人らしさ」を大切に、ゆっくりと過ごしていただき、希望や要望に添えるように努めます。コロナ禍にあって、制限の多い生活になっていますが、施設内だ利用者様が楽しめるイベントやレクリエーションを継続したり、外出がままならないことから外の景色を見て少しでも気持ちをリフレッシュして頂けるように時には降りないドライブを試んでいます。ご家族様との面会も窓越し面会や、ズームでの面会を行い、その他ゆず新聞で日頃の様子等をお伝えしながら、ご家族様にも安心して頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でなかなか会えず、互いに寂しい思いをしていましたが、今年に入って面会ができるようになり、本人の笑顔に直面でき家族も安心しています。少しでも「会える」よう工夫し、日頃の様子も伝えるなかで事業所と職員の尽力を受け止め、感謝の言葉を家族もアンケートに綴っており、開設以来家族とは良好な関係を築いています。どんどん焼きでは餅花をつくり、節分では鬼の面をかぶり、父の日は女性利用者総出でお稲荷づくりに腕を振るうという節目の行事を大切におこなう取組みが利用者の安寧と家族の信頼につながっていることが、「ゆず新聞」や家族のアンケートの様子に結ばれていて、安心感に満ちる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆずの家の理念は誰でも目にすることが出来るように玄関に掲示しています。「住み慣れた地域で共に生きて暮らす」を事業所理念にあげ「その人らしさ」を大切にして日々利用者様のケアを実践しています。	厄払いや無病息災を願う「どんと焼き」では皆で餅花を飾り付けたり、節分にはお寿司屋さんに恵方巻きを届けてもらい、その後それぞれが鬼のお面をかぶり、豆まきに興じるといった節目節目の行事を大切におこなう様子から理念の楚が受けとめられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍ではありますが、少しずつ地域との交流を再開しています。大岩区文化祭に利用者様の作品を展示して頂きました。本人と見学に行く地域の方々に声をかけて頂いてとても喜ぶ姿を見る事が出来ました。ゆずの家の防災訓練にも参加して頂けるとのお声かけも頂いております。	少しずつですがウイズコロナの歩みを進め、ソーシャルディスタンスがとれる範囲での交流は始まっています。葡萄の房がたわわに実る様子を模した壁画や、フクロウが3Dで浮き上がって見えるようにした利用者の共同制作を大岩区文化祭にも出展しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域寄合処へ行き認知症の人の理解やゆずの家で行っているサービスの説明等を行いました。また学生ボランティアや中学生職業体験の受け入れを行っています。コロナ禍であっても福祉課の高校生の実習も細心の注意をしながら実践できました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面での報告になっていましたが、感染対策をしながら運営推進会議を再開し、直接話し合うことで、お互いの理解を深めることが出来き、少しずつサービス向上へ繋がられるようになりました。	コロナ対策として書面開催に切り替えていた運営推進会議は4月と6月は参会でき、新任の区長にはゆずの家のことをプレゼンテーションでき、大変よい機会となりました。8月は感染拡大で再び書面となり、状況を見てとしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所は運営推進会議、包括は部会で情報交換しており、事業所間でも連携を取り、協力関係を築くように取り組んでいます。コロナ禍であって会議が中止になってもインターネットによる情報の提供により、市役所からのコロナ情報も共有できています。	富士宮市は移動方式で認知症カフェを開催していて、大手量販店で開催された先日の催しにはゆずの家として1名出席のうえ、活動報告などをおこなっています。地域包括支援センターからは利用者の照会があり、困難事例であっても前向きに受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ゆずの家では身体拘束ゼロ宣言をしています。新人職員には「身体拘束」に関する施設内研修や外部研修にて学ぶ機会を設けて、身体拘束ゼロのケアに取り組んでいます。	「身体拘束防止委員会」を3ヶ月毎に開催して話し合うことが常態化して、「こういうことがあるんだよ」「ではこうしよう」といったユニット間、職員間の助け合いがスムーズとなり、職員同士が情報共有できるようになったメリットがあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての施設内研修や外部研修に積極的に参加し、認知症の理解を深め、職員がストレスをためないように声掛けを行っています。また利用者様の様子を常に観察して職員間で情報の共有に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解や成年後見人制度について管理者が研修に行き学んでいます。職員においても権利擁護について施設内研修を行っています。現入居者様で制度の利用をされている方もおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要説明書等、口頭で説明を行い、利用者様やご家族様の不安や疑問に丁寧に対応させて頂いております。改定等の際には、文章にてお知らせしています。また疑問等あれば、いつでも気軽にお声がけくださいとお伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会制限がある中で、直接ご意見を伺う機会が少ない為、お電話を頂いたり、担当者から連絡をする事により、ご家族様からご意見を頂き、それらの意見を紙面に表記して運営推進会議で外部の意見として反映させています。	面会については意向も多様です。電話を入れて都度状況報告と意思の確認をおこなっており、全てを実現できないまでも現況把握はできています。何事も「聴く」ということが中心にあるからか、家族アンケートでも対応には定評があることがアンケートでも確認されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議に、代表者、管理者が出席して職員からの意見や提案を聞き取り、管理会議にて検討し反映されています。	会議前には用紙を配り、職員は事前に意見整理ができています。職員会議では「休憩室の改良」についての提案も挙がっていて、消極的だったり、意見がないという後ろ向きの人もいません。気になる人には面談をおこなってはいますが定期面談はありません。	定着率が決して高くないことを鑑み、面談機会を増やしていく事を「期待します」。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の職員会議に代表者、管理者が出席し、職員の意見等を聞き、働きやすい環境作りや待遇等の改善に努めています。また職員は自己評価表を提出し管理会議にて検討され、反映されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに年間研修計画にて、職員の能力や介護力を踏まえて法人内の研修を受けられるように計画されています。働きながら「資格が取れるように研修費や受講料等の支援をしています」。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会の小規模ホーム部会でリモートでの研修や、実践報告会の八表会に参加させて頂き、意見交換や交流の機会を作ったり、自施設の質の向上に取り組まさせて頂いています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様及びご家族様から聞き取りを行い、今まで通りの生活に近付けて行ける様、不安や要望等を傾聴し、職員間でも共有して、居心地が良いと思っ頂ける様な場所づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困っている事等が解消されるまで聞き取りを行い、その都度の質問に対応しています。安心してサービスが受けられるように意見交換し、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の介護度や認知度などから、担当ケアマネとご家族様やご本人様に希望も照らし合わせ、その方に合った施設の提供とサービスの種類等の提示に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の「できろ」ことを尊重し、今までの暮らしからかけ離れる事が無いように「その人らしさ」を大切にケアに努める。また職員と一緒に台所仕事や洗濯干し、たみ等を通じて馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に4回の「ゆず新聞」での情報提供や、ご家族様と電話で連絡を取り合い日頃の様子をお伝えするようにしています。常にご家族様とご相談出来る様に良い関係を保っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、遠方の親戚の方、お友達、近所の知り合いの方等の馴染みの関係との結びつきを大事にしています。元住んでいた家や、お墓参り等の馴染みの場所へ出かけるなどしていましたが、コロナ禍で行えていません。電話でのお話など出来る事を支援させて頂いています。	面会は2m程距離をとって玄関の外で直接会うか、硝子越しの2種類が主ですが、中には遠方に住む家族もいてリモート面会を月1回程度実施している例もあります。また珈琲の愛飲が続いている人には職員がキリマンジャロの豆を買ってきて、挽くのを見守っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、座席の配置だったり、洗濯たみや配膳、レク参加などお互いに譲り合い、人への気配り、個々の個性を生かし共同生活をしています。孤立しそうな方に対しては職員が間に入り仲を取り持っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後も相談等あれば対応出来る様に今までの関係性を大切にしたいと思います。かりんの家に入居後も連絡を頂いたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の要望等を聞き取り、職員間で共有する事で「その人らしさ」の生活が出来る様に支援しています。意思疎通の困難な方も言葉や表情から読み取り、ご本人の要望に添える様に努めています。	センター方式の「私の気持ちシート」を導入しています。利用者のイラストを描かなくてはならないため、職員にとってはやや難儀ですが、半年に1度利用者様に聴いてみることで、意向が以前と違うこともあり、定期的聴き取りが有益に機能しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族様への聞き取りから今までの生活に近い環境を作りをし、サービス利用にあたっては経過記録から、職員間で利用者様の日々の状態を把握し、申し送りノートや口頭で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のお一人お一人の過ごし方は、個別で対応し、日々の変化も職員で共有し対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員会議にてカンファレンスを行い、ご家族様にはお電話で近況報告させて頂いています。ご本人やご家族様の意向を伺い、介護計画へ反映させ、サービス提供していける様に努めています。	2ユニットに計画作成担当者は1名でよいことになりましたが、事業所ではこれまでの体制を変えず2名の内1名が介護支援専門員で本件を進めています。家族意見は面会を利用して居室担当者が必ず聞くように努め、作成後の報告も欠かさずおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元にケアの実践、結果等は、日々の介護経過記録に記入しています。職員会議にてモニタリングをして検証し、見直しがあった際には全職員が情報を共有してケアに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態変化やご本人のニーズ、ご家族様の状況変化がある時は、カンファレンスをして柔軟な支援やサービスが出来る様に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大岩区の文化祭、どんど焼きに参加させて頂きました。餅つきではご家族様やボランティアの協力を得ることができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の意向に添い、かかりつけ医を決めて頂いています。当ホームでは医療連携している事をご理解頂き、月2回の内科往診と、希望による月1～4回の歯科往診を受けています。緊急時は主治医の指示の元に迅速な対応をしています。	4名が在宅の頃からの医師に通い、家族が付き添っていますが、車いす利用となって家族では難しい人もおり、そのときは職員が医院まで介助して、家族と現地集合としています。協力医の2回の訪問診療には看護師である管理者が立ち会って連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が配置されています。介護職員と看護職員間で情報共有しており、医療的な支援は支持の元に行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族様の協力のもと、安心して治療が受けられる様に情報提供を行っています。早期退院出来るようケアマネから病院関係者と情報交換して病院関係者との関係作りを努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた支援について口頭にて説明し、ご家族様の意向を書面にて確認しています。終末期になった時には主治医からご家族様へ現状の説明を含め何度もムンテラを行っています。	ちょうど運良く玄関近くの部屋が空室となり、看取り部屋として使えたため、家族が他の人の部屋を通らずに通えたことは大きな恩恵で、コロナ禍であっても無事お見送りすることができています。面会は3名までと密の制限をしつつも、「良かった」と家族に感謝されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は利用者様の急変や事故発生時に備えて、それぞれマニュアルに沿ったの対応を心掛けています。定期的に消防署の協力を得てAEDの使い方や心肺蘇生法、消防への通報の仕方などの訓練を定期的に行っています。AEDも設置しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力のもと地震と火災想定訓練を行っています。倉庫には食料と飲料の備蓄しています。地域の消防訓練には安否確認の黄色い旗を出す事によって、町内会長が安否確認に見回りと利用者の状況を聞き取りして下さりました。	今9月には地震想定で発電機作動も試行のほか、ガウテックについてレクチャーも実施予定です。次回の11月には火災想定で水消火器やAEDの操作方法についておこなうことになっていて、レクチャーには図入り説明書も用いることで職員の理解を進めています。	次の2点を期待します。①AEDは月1回操作方法を確認しているとのことですので、同じく発電機の作動も検討ください。②新任者には着任のその日に避難経路、報知器、消火器の場所をアナウンスください。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は施設内研修や外部研修に参加し、繰り返し「権利擁護」の理解を深めていくように努めています。排泄時、入浴時、食事等の気配りや丁寧な言葉かけなどを心掛けて対応するように努めています。	ミニ運動会の様子を見るに一人ひとりが得意げにゲームに参加していることが確認でき、また車いす使用の人は車いすで輪投げをおこなう様子から、職員がADLの多様性に呼応してメンバーとして加わるよう種目を吟味したことが受けとめられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思の尊重や自己決定出来るように個々に合わせた声掛けを行い、希望に添える様に支援しています。新人職員にも伝えて周知しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用者様が「その人らしく」過ごして頂く為に、ご本人のペースでゆっくりとした生活を送られています。無理強いせず、行動を見守り希望に添った支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやお洒落は、自立されている方は自身で整容し、洋服も好みで選ばれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は旬の物を用意し、季節感してもらい、好みや盛り付け等の工夫し、感染対策を取りながら食事が楽しみなものになるように心掛けています。また調理の手伝いや味見なども一緒に行っています。	ひな祭りではちらし寿司の副菜が4品と力の入れようが伺え、恵方巻きは近くのお寿司屋さんから取り寄せ本格的で、また誕生日にはにぎり寿司と、利用者はお寿司が大好きです。歯科医師の往診もあり、かみ合わせが向上して摂取量が増えた例もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の中には塩分控えめやカロリー制限の方もおり対応しています。食事量、水分量もチェック表を使用して体調管理が出来るようにしています。また利用者様の状態に応じて食事形態を変えて食べやすい様に配慮し、栄養摂取のバラつきがないように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。個々に合ったケア用具を使い分けて行っています。口内炎や義歯の破損等無いかも適時確認しています。ケア用具等の消毒も定期的に行っています。歯科受診や往診の支援も行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っています。ご本人の意思に添ってトイレ誘導を行っています。無理強いはないケアを心掛けています。	平均介護度2.6、車いす使用が4~5名、浴槽をまたまげなくなっている人は2名いますが、日中ベッド上の交換となっている人はいません。バット交換(回数)の時間を狭めて失禁の回数を減らそうとの議題は職員会議のたびにあげていて、意識に定着しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ハラスの長い食事や乳製品で便通が良くなるように心掛けています。水分も取って頂く様に声掛けをし水分摂取しにくい方にはお茶ゼリー等を提供しています。医師や看護師と相談して整腸剤や緩下剤等を服薬しています。排便表で周期を把握し便秘にならない様に散歩や運動も取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調やバイタルをチェックし、ご本人の希望に添って毎日または週に2回以上入浴出来る様に支援しています。	浴槽をまたげなくてもゆっくり湯に浸かる喜びを味わってもらえるよう、2人介助を可能とする職員配置の工夫にも努めています。中には自作の歌を披露する人もいます。また週2回から3回の入浴日を更に増やしたい希望がある人にも協力しており、週4回の人もいます。	入浴剤が現在1種類のため、「選べる機会として」何種類か備えることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、お昼寝の時間を取っています。また夜間は利用者様の生活習慣に応じて個々に入床しています。カーテンも遮光にし、室内の空調も安眠できるように調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の服薬状況を把握し、共有するために薬ファイルを用意し、いつでも目を通す事が出来る様にしています。介護職員は利用者様の状態変化等をその都度、看護師に伝え、医師の支持を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様には、塗り絵、読書、折り紙、書写、ペン習字など好きな事が出来る様に支援しています。日々の生活の中では洗濯干しや畳み、配膳や片付け等の役割が有る事に張り合いを持ち、楽しく行っています。また毎月行事がある為、気分転換出来るような支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染状況に応じて、人混みを避けた時間にバラ園の見学に出かけました。時には数名ずつに分かれて、降りないドライブにも出かけ、外の景色をみる事で気分転換に繋げる事ができました。	浅間神社、白糸自然公園などと近隣ドライブでは人けを避けて季節の風や花を堪能しています。富士山にかかった雲を利用者がみつけ、「帯をしめたみたいだね」と発したことに皆で感動、褒め称えるとともに笑顔の輪が膨らんだ日もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では極力お金を持たないようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に添って電話をかける事が出来る様に支援しています。 リモート面会も支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日掃除しています。天候や季節に応じて空調調整やレースのカーテン等で不快の無いようにしています。リビングには花や掲示物が鑑賞出来る様に工夫しています。コロナ禍にの為に、1日に3回以上、手すり、テーブルや椅子等の拭けるところは全てアルコール消毒を行っています。	ロールサンドやぼた餅を作る時は男性利用者も腕まくりをし、テーブルを寄せ、さながらミニ工場のように皆で取りかかる日もあり、制作や調理でも困ることのないよう、共用空間は整理整頓を心がけています。また庭にはサツマイモ畑をつくり、育成と収穫も一つの喜びとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席など利用者様同士の相性や、テーブルが無いように工夫して席を決めています。リビングにはソファを幾つか配置しており、思い思いに自分の場所を見付けられる様に自由に座って頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様には今までの生活をそのまま過ごして頂ける様に、居室には好きな写真や置物、お仏壇等の馴染みの物を置いて頂き、自宅で過ごしているような空間を作る事で、安心して生活出来る様に支援しています。	部屋は決して広くはありませんが、車いすを自分で操作できる人はおらず、居室では使ってはいけません。お気に入りの人形と一緒にベッドで眠りにつく人や、家族写真を眺めつつ入眠する人など様々ですが、概ね自室は就寝スペースで、常にはリビングで皆と過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸にはお名前プレートを表示しています。トイレ等も文字やマークで名所を分かりやすく表示しています。 自由で、安全に自立した生活が送れる様に工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100161		
法人名	有限会社ハートフルケア		
事業所名	グループホームゆずの家1号館(2号館)		
所在地	静岡県富士宮市大岩493-15		
自己評価作成日	令和4年7月28日	評価結果市町村受理日	令和4年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2272100161-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆずの家の理念にあるように「その人らしさ」を大切に、ゆっくりと過ごしていただき、希望や要望に添えるように努めます。コロナ禍にあって、制限の多い生活になっていますが、施設内だ利用者様が楽しめるイベントやレクリエーションを継続したり、外出がままならないことから外の景色を見て少しでも気持ちをリフレッシュして頂けるように時には降りないドライブを試んでいます。ご家族様との面会も窓越し面会や、ズームでの面会を行い、その他ゆず新聞で日頃の様子等をお伝えしながら、ご家族様にも安心して頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でなかなか会えず、互いに寂しい思いをしていましたが、今年に入って面会ができるようになり、本人の笑顔に直面でき家族も安心しています。少しでも「会える」よう工夫し、日頃の様子も伝えるなかで事業所と職員の尽力を受け止め、感謝の言葉を家族もアンケートに綴っており、開設以来家族とは良好な関係を築いています。どんどん焼きでは餅花をつくり、節分では鬼の面をかぶり、父の日は女性利用者総出でお稲荷づくりに腕を振るうという節目の行事を大切におこなう取組みが利用者の安寧と家族の信頼につながっていることが、「ゆず新聞」や家族のアンケートの様子に結ばれていて、安心感に満ちる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆずの家の理念は誰でも目にすることが出来るように玄関に掲示しています。「住み慣れた地域で共に生きて暮らす」を事業所理念にあげ「その人らしさ」を大切にして日々利用者様のケアを実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ではありますが、少しずつ地域との交流を再開しています。大岩区文化祭に利用者様の作品を展示して頂きました。本人と見学に行く地域の方々に声をかけて頂いてとても喜ぶ姿を見る事が出来ました。ゆずの家の防災訓練にも参加して頂けるとお声かけも頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域寄合処へ行き認知症の人の理解やゆずの家で行っているサービスの説明等を行いました。また学生ボランティアや中学生職業体験の受け入れを行っています。コロナ禍であっても福祉課の高校生の実習も細心の注意をしながら実践できました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面での報告になっていましたが、感染対策をしながら運営推進会議を再開し、直接話し合うことで、お互いの理解を深めることが出来き、少しずつサービス向上へ繋がられるようになりました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所は運営推進会議、包括は部会で情報交換しており、事業所間でも連携を取り、協力関係を築くように取り組んでいます。コロナ禍であって会議が中止になってもインターネットによる情報の提供により、市役所からのコロナ情報も共有できています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ゆずの家では身体拘束ゼロ宣言をしています。新人職員には「身体拘束」に関する施設内研修や外部研修にて学ぶ機会を設けて、身体拘束ゼロのケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての施設内研修や外部研修に積極的に参加し、認知症の理解を深め、職員がストレスをためないように声掛けを行っています。また利用者様の様子を常に観察して職員間で情報の共有に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解や成年後見人制度について管理者が研修に行き学んでいます。職員においても権利擁護について施設内研修を行っています。現入居者様で制度の利用をされている方もおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要説明書等、口頭で説明を行い、利用者様やご家族様の不安や疑問に丁寧に対応させて頂いております。改定等の際には、文章にてお知らせしています。また疑問等あれば、いつでも気軽にお声がけくださいとお伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会制限がある中で、直接ご意見を伺う機会が少ない為、お電話を頂いたり、担当者から連絡をする事により、ご家族様からご意見を頂き、それらの意見を紙面に表記して運営推進会議で外部の意見として反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議に、代表者、管理者が出席して職員からの意見や提案を聞き取り、管理会議にて検討し反映されています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の職員会議に代表者、管理者が出席し、職員の意見等を聞き、働きやすい環境作りや待遇等の改善に努めています。また職員は自己評価表を提出し管理会議にて検討され、反映されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに年間研修計画にて、職員の能力や介護力を踏まえて法人内の研修を受けられるように計画されています。働きながら資格が取れるように研修費や受講料等の支援をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会の小規模ホーム部会でリモートでの研修や、実践報告会の八表会に参加させて頂き、意見交換や交流の機会を作ったり、自施設の質の向上に取り組ませて頂いています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様及びご家族様から聞き取りを行い、今まで通りの生活に近付けて行ける様、不安や要望等を傾聴し、職員間でも共有して、居心地が良いと思っ頂ける様な場所づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困っている事等が解消されるまで聞き取りを行い、その都度の質問に対応しています。安心してサービスが受けられるように意見交換し、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の介護度や認知度などから、担当ケアマネとご家族様やご本人様に希望も照らし合わせ、その方に合った施設の提供とサービスの種類等の提示に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の「できろ」ことを尊重し、今までの暮らしからかけ離れる事が無いように「その人らしさ」を大切にケアに努める。また職員と一緒に台所仕事や洗濯干し、たみ等を通じて馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に4回の「ゆず新聞」での情報提供や、ご家族様と電話で連絡を取り合い日頃の様子をお伝えするようにしています。常にご家族様とご相談出来る様に良い関係を保っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、遠方の親戚の方、お友達、近所の知り合いの方等の馴染みの関係との結びつきを大事にしています。元住んでいた家や、お墓参り等の馴染みの場所へ出かけるなどしていましたが、コロナ禍で行えていません。電話でのお話など出来る事を支援させて頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、座席の配置だったり、洗濯たみや配膳、レク参加などお互いに譲り合い、人への気配り、個々の個性を生かし共同生活をしています。孤立しそうな方に対しては職員が間に入り仲を取り持っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後も相談等あれば対応出来る様に今までの関係性を大切にしたいと思います。かりんの家に入居後も連絡を頂いたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の要望等を聞き取り、職員間で共有する事で「その人らしさ」の生活が出来る様に支援しています。意思疎通の困難な方も言葉や表情から読み取り、ご本人の要望に添える様に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族様への聞き取りから今までの生活に近い環境を作りをし、サービス利用にあたっては経過記録から、職員間で利用者様の日々の状態を把握し、申し送りノートや口頭で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のお一人お一人の過ごし方は、個別で対応し、日々の変化も職員で共有し対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員会議にてカンファレンスを行い、ご家族様にはお電話で近況報告させて頂いています。ご本人やご家族様の意向を伺い、介護計画へ反映させ、サービス提供していける様に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元にケアの実践、結果等は、日々の介護経過記録に記入しています。職員会議にてモニタリングをして検証し、見直しがあった際には全職員が情報を共有してケアに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態変化やご本人のニーズ、ご家族様の状況変化がある時は、カンファレンスをして柔軟な支援やサービスが出来る様に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大岩区の文化祭、どんど焼きに参加させて頂きました。餅つきではご家族様やボランティアの協力を得ることができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の意向に添い、かかりつけ医を決めて頂いています。当ホームでは医療連携している事をご理解頂き、月2回の内科往診と、希望による月1~4回の歯科往診を受けています。緊急時は主治医の指示の元に迅速な対応をしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が配置されています。介護職員と看護職員間で情報共有しており、医療的な支援は支持のの元に行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族様の協力のもと、安心して治療が受けられる様に情報提供を行っています。早期退院出来るようケアマネから病院関係者と情報交換して病院関係者との関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた支援について口頭にて説明し、ご家族様の意向を書面にて確認しています。終末期になった時には主治医からご家族様へ現状の説明を含め何度もムンテラを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は利用者様の急変や事故発生時に備えて、それぞれマニュアルに沿ったの対応を心掛けています。定期的に消防署の協力を得てAEDの使い方や心肺蘇生法、消防への通報の仕方などの訓練を定期的に行っています。AEDも設置しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力のもと地震と火災想定訓練を行っています。倉庫には食料と飲料の備蓄しています。地域の消防訓練には安否確認の黄色い旗を出す事によって、町内会長が安否確認に見回りと利用者の状況を聞き取りして下さりました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は施設内研修や外部研修に参加し、繰り返し「権利擁護」の理解を深めていくように努めています。排泄時、入浴時、食事等の気配りや丁寧な言葉かけなどを心掛けて対応するように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思の尊重や自己決定出来るように個々に合わせた声掛けを行い、希望に添える様に支援しています。新人職員にも伝えて周知しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用者様が「その人らしく」過ごして頂く為に、ご本人のペースでゆっくりとした生活を送られています。無理強いせず、行動を見守り希望に添った支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやお洒落は、自立されている方は自身で整容し、洋服も好みで選ばれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は旬の物を用意し、季節感してもらい、好みや盛り付け等の工夫し、感染対策を取りながら食事が楽しみなものになるように心掛けています。また調理の手伝いや味見なども一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の中には塩分控えめやカロリー制限の方もおり対応しています。食事量、水分量もチェック表を使用して体調管理が出来るようにしています。また利用者様の状態に応じて食事形態を変えて食べやすい様に配慮し、栄養摂取のバラつきがないように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。個々に合ったケア用具を使い分けて行っています。口内炎や義歯の破損等無いかも適時確認しています。ケア用具等の消毒も定期的に行っています。歯科受診や往診の支援も行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っています。ご本人の意思に添ってトイレ誘導を行っています。無理強いはないケアを心掛けています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事や乳製品で便通が良くなるように心掛けています。水分も取って頂く様に声掛けをし水分摂取しにくい方にはお茶ゼリー等を提供しています。医師や看護師と相談して整腸剤や緩下剤等を服薬しています。排便表で周期を把握し便秘にならない様に散歩や運動も取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調やバイタルをチェックし、ご本人の希望に添って毎日または週に2回以上入浴出来る様に支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、お昼寝の時間を取っています。また夜間は利用者様の生活習慣に応じて個々に入床しています。カーテンも遮光にし、室内の空調も安眠できるように調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の服薬状況を把握し、共有するために薬ファイルを用意し、いつでも目を通す事が出来る様にしています。介護職員は利用者様の状態変化等をその都度、看護師に伝え、医師の支持を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様には、塗り絵、読書、折り紙、書写、ペン習字など好きな事が出来る様に支援しています。日々の生活の中では洗濯干しや畳み、配膳や片付け等の役割が有る事に張り合いを持ち、楽しく行っています。また毎月行事がある為、気分転換出来るような支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染状況に応じて、人混みを避けた時間にバラ園の見学に出かけました。時には数名ずつに分かれて、降りないドライブにも出かけ、外の景色をみる事で気分転換に繋げる事ができました。。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では極力お金を持たないようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に添って電話をかける事が出来る様に支援しています。 リモート面会も支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日掃除しています。天候や季節に応じて空調調整やレースのカーテン等で不快の無いようにしています。リビングには花や掲示物が鑑賞出来る様に工夫しています。コロナ禍にの為、1日に3回以上、手すり、テーブルや椅子等の拭けるところは全てアルコール消毒を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席など利用者様同士の相性や、テーブルが無いように工夫して席を決めています。リビングにはソファを幾つか配置しており、思い思いに自分の場所を見付けられる様に自由に座って頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様には今までの生活をそのまま過ごして頂ける様に、居室には好きな写真や置物、お仏壇等の馴染みの物を置いて頂き、自宅で過ごしているような空間を作る事で、安心して生活出来る様に支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸にはお名前プレートを表示しています。トイレ等も文字やマークで名所を分かりやすく表示しています。 自由で、安全に自立した生活が送れる様に工夫しています。		